

マリーン・ プロフェッショナル

Japan Marine Construction
Engineering Association



CONTENTS

VOL. 159

海技協会報

- ページ
- 01 巻頭言 中部支部**
「一陣の風に」
一般社団法人日本海上起重技術協会 中部支部長
青木建設株式会社 代表取締役 佐野 茂樹
- 02 協会活動**
令和8年度講習試験等のお知らせ
- 03 会員寄稿「会員の広場」北海道支部**
新名所 エスコンフィールド北海道 Fビレッジ
白鳥建設工業株式会社 専務取締役 齊藤 秀樹
- 05 会員作業船紹介[㊦] 沖縄支部**
7,700 t フローティングドック船「第7大寛号」
株式会社 大 寛 組
- 08 海の匠「登録海上起重基幹技能者の紹介」シリーズ[㊦] 九州支部**
有限会社 善徳丸建設 栗山 正臣
- 09 マリーンニュース「事務局だより」**
- 10 インフォメーション「お知らせコーナー・販売図書案内」**

「一陣の風に」

一般社団法人日本海上起重技術協会 中部支部長
青木建設株式会社 代表取締役
佐野 茂樹



国の内外を問わず、多くの先人達が名言を残しています。時に励まされ、時に悟らされ、また時に勇気をもったりする事があります。例えば後藤新平（1857～1929、医師・官僚・政治家）は「金を残して死ぬのは下、仕事を残して死ぬのは中、人を残して死ぬのは上」そして今一人、山本五十六（1884～1943、海軍軍人）は「やって見せ、言って聞かせてさせてみせ、褒めてやらねば人は動かじ」これには後段がありまして、「話し合い、耳を傾け承認し、任せてやらねば人は育たず、姿を感謝で見守って、信頼せねば人は実らず」何ということでしょうね、お二人の言葉は現代を生きる私たち建設業界だけでなく、世の人材育成のヒントが凝縮された言葉だと思います。80年、100年前の先人達も同じようなご苦労をされたようです。今回投稿の機会を頂きましたので、弊社の第2代社長、二宮陸治氏の随想文を纏めた小冊子の中から、「風になりたい」を紹介いたします。{(前略) 終戦直後の私の青春時代には、旧制高校の校庭の落ち葉を掃き集めてたき火をし暖をとったり、芋を焼いたりしたものだ。その古いドラム缶のうす煙を見ていると、博士が「この落ち葉はくすぶったまま灰になるだろう、だがここに一陣の風が吹いてくれば、赤々とした炎が燃え上がり、そして灰になる。しかし炎が燃え上がるときにはその炎を起こした風はない。君たちにはその炎を起こす一陣の風になってもらいたい。」と話されたことを思い出した。それから四十余年、博士のいわれる一陣の風には及ぶべきもないが、風になろうという気持だけは忘れずに生きてきた。これからもかくありたいと思っている。(後略)} まさに二宮氏は「風」になり、当時の静岡県建設業協会内に「若手建設従業者入職対策促進会議」を発足させ、更に「天災から郷土を守る不滅の仕事」としての建設業を大いに世にPRする事に尽力された。さらに40年余りが過ぎた現代でも「人を育て、人を残す」という悩みを抱えて奮闘している建設業界の中で、我々に課せられた「地域の守り手」という社会的使命を一層自覚し、後に続く若い人たちが夢と希望と誇りをもって活躍できるように一陣の建設の風を吹き込みたいものです。

令和8年度 講習試験等のお知らせ

令和8年度の講習試験等を下記のとおり開催しますので、お知らせします。

[1] 登録海上起重基幹技能者

開催地	開催日	会場
東京	令和8年10月22日(木)～10月23日(金)	飯田橋レインボービル(東京都新宿区市谷船河原町11)
大阪	令和8年10月29日(木)～10月30日(金)	大阪科学技術センター(大阪市西区靱本町1-8-4)

※受講申請書受付期間：5月7日(木)～6月19日(金)

[2] 海上起重作業管理技士

開催地	開催日	会場
東京	令和8年10月2日(金)	飯田橋レインボービル(東京都新宿区市谷船河原町11)
大阪	令和8年10月9日(金)	大阪科学技術センター(大阪市西区靱本町1-8-4)

※受講申請書受付期間：5月7日(木)～6月19日(金)

[3] 更新講習会

登録海上起重基幹技能者、海上起重作業管理技士

開催地	開催日	会場
東京	令和8年9月4日(金)	飯田橋レインボービル(東京都新宿区市谷船河原町11)
神戸	令和8年9月11日(金)	神戸市産業振興センター(神戸市中央区東川崎町1-8-4)
福岡	令和8年9月18日(金)	福岡商工会議所(福岡市博多区博多駅前2-9-28)
オンライン	令和8年10月1日(木)～10月25日(日)	協会ホームページ オンライン講習サイト

※受講申請書受付期間：5月7日(水)～6月19日(金)

[4] その他

- (1) 講習試験等の応募要領は、協会ホームページに掲載します。
- (2) 不明な点があれば、協会まで問い合わせして下さい。

新名所 エスコンフィールド北海道 Fビレッジ

白鳥建設工業株式会社 専務取締役 齊藤 秀樹

北海道の観光スポットと言えば、小樽やニセコ等沢山の名所がありますが、千歳空港と札幌の中間位置にあるエスコンフィールド北海道 Fビレッジ（北広島市）が、北海道の新名所として進化を続けております。2003年にプロ野球日本ハムファイターズが札幌ドームを本拠地として移転し北海道に根付いて20年、新たな本拠地として札幌の隣町北広島市へ600億円のスタジアムを建設しました。開業当初の2023年は346万人、2年目の2024年は419万人、昨年の2025年は459万人と年々増加傾向にあります。参考までに2024年の東京スカイツリー来場者数は467万人になります。エスコンフィールドは試合のない日も営業していて、スタジアムツアーや飲食店、サウナやホテルも営業していて新たな観光名所として賑わっております。

エスコンフィールド内には、フードコート『七つ星横丁』には、たこ焼き道楽わなか、焼肉と韓国料理羅山、銀座三州屋、寿司の天金、ラーメン麵屋優光など沢山の飲食店が営業しており試合のない日も、多くの観光客で賑わっています。私のおすすめは、IZAKAYAとぼすの横浜で1日300杯売れる「もつ煮込み」と日本ハムが営業するHOTDOG FUNのロングシャウエッセンを使ったホットドックがとても美味しいです。それと、世界初



のフィールドが一望できるクラフトビール醸造レストラン「そらとしば by よなよなエール」。球場で作った、ここでしか飲めないオリジナルクラフトビールも絶品です。クラフトビールを片手に、ホットドックを食べると幸福感に包まれます。是非皆様へお勧めしたいと思います。

福岡PayPayドーム以来となるNPB史上2番目となる開閉式屋根付き球場で、屋内の天然芝は日本の野球場では初めてであります。外野側の壁は最大高さ70mとなるガラス壁であり、採光性を高めて天然芝の育成に寄与し、天然芝の育成のため、非試合日を中心に不定期に屋根は開放されます。年に数回、ルーフオープンデーとしてプロ野球の試合も開催されます。北海道の心地良い風を浴び、クラフトビールを飲みながら野球観戦は最高のストレス解消に繋がります。私はホームでの試合70試合中30試合程度、観戦し満喫しております。



北海道の牛乳から作られるスイーツも絶品です。町村農場さんの30cm程の巨大なパフェは1,500円しますが食べる価値満載です。お腹いっぱい幸せな気分になります。



野球の試合のない時は、チアダンスユニットのファイターズガールの案内でスタジアムツアー(有料)、ベンチや選手のロッカールーム、グラウンド内や観客席、記者会見場などを見学する事も出来ます。



北海道に移転後、北海道日本ハムファイターズは、2006年、2016年とリーグ優勝と日本一に輝いています。10年ごとの日本一にあたる2026年、新庄監督率いるファイターズの選手の皆様の活躍と飛躍を期待しています。今年のファイターズのスローガンは『DOMIれ!』道民の思いを背負って圧倒的に勝って欲しいです。エスコンフィールド北海道が開業して初めて開催される、プロ野球日本シリーズを夢見て、毎日応援します。



エスコンフィールド北海道に隣接する、JR千歳線の新駅は、2028年夏ごろに開業予定です。この新駅は「(仮称)北海道ボールパーク駅」と呼ばれ、球場へのアクセス向上を目的としています。駅から球場へ続くペデストリアンデッキと接続し、多様な人々が利用できる拠点となります。その他の施設としては、ホテルが2027年秋頃に「DHAWA」ブランドのホテルが開業予定です。2028年9月には、36階建てのタワーマンションが完成予定です。新たに商業・オフィス施設「(仮称)Fビレッジ複合施設」の開発が決定し着工しました。2028年春の開業を予定しています。

また、北海道医療大学も2028年4月頃にFビレッジへの移転が計画されています。

これからもどんどん進化しつづける、エスコンフィールド北海道、皆様も北海道に来られた際は、ぜひ立ち寄って観て下さい。

7,700tフローティングドック船 『第7大寛号』

株式会社 大 寛 組

1. はじめに

当社は、昭和35年に創業以来65年にわたり土木工事業を営んでおります。その間に沖縄県の主要道路や漁港及び港湾工事を数多く携わりました。

特に港湾工事は、重要工事と位置づけて沖縄県の那覇港・石垣港・平良港と数多く施工に携わりました。

フローティングドック船は、昭和58年に第8大寛号が就航し、昭和62年に第5大寛号・平成11年に新第8大寛号・令和7年に第7大寛号が就航して、沖縄本島内、離島を含む多数のケーソン製作工事で活躍しています。

現在は、フローティングドック船、第7大寛号と新第8大寛号が稼働しております。



第7大寛号全景

会員作業船紹介

第7大寛号 建造にあたり

①ケーソン製作～進水曳出において、より良い環境を実現する事

②荒天時の対応をより強靱にすること

以上の2点を最も留意し、設計時より打合せを重ねました。

①において、特に主要機材となるクレーンには最大作業半径で7 tonのアンカーが吊れる事が可能となり、作業甲板内全ての範囲で7 tonの揚重作業が可能となっております。

風当たり面積の大きい型枠建込みの際、振れ回りを抑え建込みを可能にする様、補巻を導入し(主巻と補巻の同時作動)(吊ながら横吊→縦吊、縦吊→横吊)動作を可能としました。これらの事から今回初めて油圧ジブクレーンの採用に至りました。

ケーソン進水・曳出時に外圧(風や潮流)によりケーソン同士もしくはケーソンと船体が接触する可能性が常にあります。対策として両舷に3基ずつキャブスタンを配しケーソンの係留索を機械の力も利用し操作する事により、より確実にケーソン曳出を行える状態となりました。

②において、毎年台風は発生・接近が繰り返されます。今後さらなる大型化・猛烈化が予想されております。

F Dの荒天対策は係留索・アンカー打増等で耐える場合、沈降し耐える場合、着底するという最終手段もあります。沈降する場合は少なからず進捗中のケーソン製作工事に影響を与えますし、着底の場合はF Dの船底損傷のリスクも加わります。大荒れの状況でどう対策したら沈降せずに耐えることが可能なのか?常に重大な課題として考え続けております。

現時点で唯一の対応策として、把駐力の強化しかないと判断。今回初めて錨鎖2本ワイヤロープ2本で構成された操船ウインチを装備する事としました。係留・錨泊いずれの場合も格段に強化されております。

装備面において、考えるより良い状態を整える事が出来ました。

残る問題は、それを扱う乗組員の確保・教育となります。

この問題は現在進行形で続けておりますが、完了する事の無い永遠の取り組みであろうと感じております。

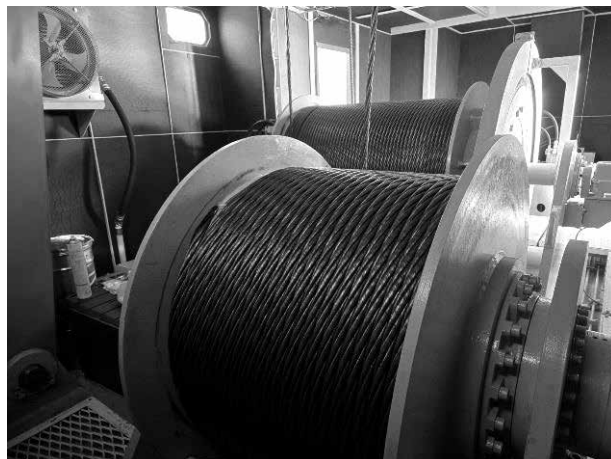
おわりに

継続的に維持管理を行い、無事故で港湾工事に携わり続ける。この事で日本国の国土強靱化に少しでも貢献できれば本望であります。

クレーン運転室



クレーン内部①



クレーン内部②



バラスト制御盤



操船ウインチ



機関室



ポンプ室



九州支部

有限会社 善徳丸建設

くり やま まさ おみ
栗 山 正 臣



プロフィール

- 出身地 佐賀県
- 生年月日 昭和49年7月11日
- 職 責 船団長
- 船 団 クレーン付台船：第七十三善徳丸(300t吊)

●経歴(資格取得)

- ・平成5年 4月 入社
- ・平成15年12月 海上起重作業管理技士 取得
- ・平成25年12月 登録海上起重基幹技能者 取得
- ・平成23年 第十八善徳丸 船団長就任
- ・平成27年 第七十三善徳丸 船団長就任

●主要工事実績

- ・平成22年 新若戸沈埋トンネル築造工事
- ・平成27年 相馬港本港地区防波堤築造工事
- ・平成27年 浦添ふ頭防波堤築造工事
- ・令和 3年 令和2年度新門司沖土砂処分場消波ブロック据付工事

●今後について

弊社の得意とする基礎均しマウンド構築の技術と知識をさらに高めるとともに、その技術を後輩へ継承していくことを大切にしております。

また、次の世代を担う若手育成を常に意識し、ICT施工の技術や知識を確実に継承していくことにも努めております。

さらに、同じ居住区で生活する仲間としての結束や信頼関係を何より重んじ、仲間意識をモットーに船団長としてチームをまとめ、より良い施工と安全な現場づくりに努めていきます。



マリーンニュース 事務局だより



本部活動

◇第112回 理事会を開催

令和8年3月23日(月)、東京都千代田区「都市センターホテル」において第112回理事会が開催され、各議案とも事務局提案どおり了承されました。

報告事項① 令和7年度事業報告の件

報告事項② 令和7年度収支決算(見込)の件

第1号議案 令和8年度事業計画の件

第2号議案 令和8年度収支予算の件

第3号議案 その他議案について

1. 令和8年度通常総会(第40回)開催に関する件
2. 会員の入会に関する件
3. その他

令和8年1月22日

◇広報・事務担当者会議

令和7年11月12日

1. 本部活動
2. 支部活動
3. 広報活動
4. その他

令和8年2月2日

◇常任委員会幹事会

1. 第112回理事会提出議案について
2. その他報告事項

令和8年3月4日

◇常任委員会(書面開催)

1. 第112回理事会提出議案について
2. その他

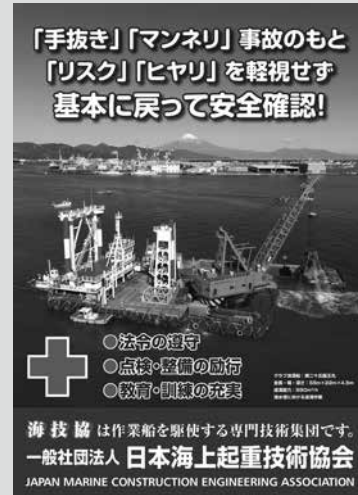
●お知らせコーナー●

安全啓蒙ポスター 配布のお知らせ

毎年度「安全ポスター」を作成し、作業員一人一人の意識向上、啓蒙に役立つこと、及び海上起重作業船団の更なる安全運航に寄与することを願うものであります。

会員への配布

「安全ポスター」は、会員には5部配布し、また発注関係官公庁にも配布しております。なお、部数に余裕がありますので、追加配布を希望される会員は協会事務局へ申し出て下さい。



「安全ポスター」

「非自航船における居住設備ガイドライン」 及びポスター配布のお知らせ

令和5年3月、一般社団法人日本埋立浚渫協会、日本港湾空港建設協会連合会、一般社団法人日本海上起重技術協会、全国浚渫業協会、一般社団法人日本潜水協会においては、港湾工事の実施に必要な不可欠である作業船内における良好な居住設備を確保するため、「非自航船における居住設備ガイドライン」を策定しました。

本ガイドラインの着実な実施を通じて作業船乗組員の適正な就労環境を確保し、もって港湾工事に係る担い手の確保を推進していくものです。

会員への配布

「非自航船における居住設備ガイドライン」A4版の冊子及びポスターは、会員にはそれぞれ1部配布していますが、部数に余裕がありますので希望される会員は事務局へ申し出てください。



「ポスター」

(注)会員専用ページは、随時更新していますのでご利用下さい。

「会員専用ページ」を開くためには「ユーザー名」と「パスワード」が必要です。当協会事務担当者にお尋ね下さい。

インフォメーション

海技協 販売図書案内

図書名	概要	体裁	発行年月	販売価格
作業船団の運航に伴う 環境保全対策マニュアル (改訂版) (国土交通省港湾局監修)	作業船団の運航に伴い自らが発生する排水等の環境阻害要因に対する対策を取りまとめたマニュアル 海洋汚染防止条約(マルポール条約)の付属書採択に伴う国内法の改正を反映 ・「港湾工事共通仕様書」に参考図書として記載	A4版 100ページ	平成30年4月	会 員 2,000円 非会員 2,500円 (消費税別、送料別)
作業船団安全運航指針 (改訂版) (国土交通省港湾局監修)	作業船団の安全な運航に対する安全衛生管理、操船、係留時等の安全対策及び作業船による架空送電線事故防止対策を取りまとめた指針 労働安全衛生法等の改正を反映、船員労働安全衛生規則に規定されている経験又は技能を要する危険作業に関する事項を新たに記載 ・「港湾工事共通仕様書」に参考図書として記載	A5版 200ページ	令和2年6月	会 員 2,000円 非会員 2,500円 (消費税別、送料別)

※購入は「図書名、部数、送付先、担当者、連絡先、請求書あて先」を記入したFAX又はメールで、協会事務局へ申し込んで下さい。

FAX 番号: 03-5640-9303

E-mail: honbu@kaigikyo.jp

マリン・プロフェッショナル
海技協会報2026.4 VOL.159

禁無断転載

発行日 令和8年4月

発行所 一般社団法人日本海上起重技術協会
広報委員会

〒103-0002

東京都中央区日本橋馬喰町1-3-8

ユースビル8F

TEL 03-5640-2941

FAX 03-5640-9303

印刷 株式会社 TBSグロウディア

一般社団法人 **日本海上起重技術協会**



本部	〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-3-8 ユースビル8F TEL 03(5640)2941 FAX 03(5640)9303 URL https://www.kaigikyo.jp/ E-mail honbu@kaigikyo.jp
北海道支部	〒060-0051 札幌市中央区南一条東2-2-5 SB大通東ビル9F (株)濱谷建設札幌支店内 TEL 011-211-5222
東北支部	〒030-0821 青森市勝田2-23-12 (株)細川産業内 TEL 017(723)1451
関東支部	〒104-0044 東京都中央区明石町13-1 (株)古川組内 TEL 03(3541)3601
北陸支部	〒951-8650 新潟市中央区西湊町通三ノ町3300-3 (株)本間組内 TEL 025(229)8473
中部支部	〒413-0011 熱海市田原本町9-1 青木建設(株)内 TEL 0557(82)4181
近畿支部	〒652-0831 神戸市兵庫区七宮町2-1-1 寄神建設(株)内 TEL 078(681)3126
中国支部	〒737-0822 呉市築地町4-40 大新土木(株)内 TEL 0823(21)1470
四国支部	〒781-0112 高知市仁井田1625-2 大旺新洋(株)内 TEL 088(847)2112
九州支部	〒808-0021 北九州市若松区響町3-1-33 (株)白海内 TEL 093-751-0350
沖縄支部	〒900-0036 那覇市西2-11-12 1F 丸尾建設(株)那覇支店内 TEL 098-869-1617